

季のうた

土肥 あき子

ものの芽のいまは風切るかたちかな かせき

山田真砂年 やまだまさとし

植物の種が時を得て発芽する。幼い芽はためらわず土を割り、身を震わせて立ち位置を決める。「風を切る」とは風に向かつて切り裂くような勢いで進む様子。折りたたまれた子葉を開けば、この世の風が容赦なく吹き付ける。いさましく風を切る形はこの場所で生きていくことの覚悟と決意の姿勢である。新しい芽はみずみずしい葉となり、花咲く陽気を待ちながら春の日を受ける器となる。「稲（いね）」主宰。